

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第6回）

議事要旨

日 時：平成 31 年 3 月 5 日（火） 10:00～12:00

場 所：ダイヤビル 2 号館 2 階 222 会議室

【議事】

1. 議事

- 1) 第 5 回委員会での指摘事項
- 2) 平成 30 年度のモニタリング調査結果
- 3) モニタリング調査計画
- 4) その他（運用計画について）

2. 今後の予定

【議事要旨】

1. 第 5 回委員会での指摘事項について

- 事務局説明 ■ 第 5 回の指摘事項について説明
主な意見等 ● 委員全員が了承

2. 平成 30 年度のモニタリング調査結果

- 事務局説明 ■ 平成 30 年度に実施したモニタリング調査結果について説明
主な意見等 ● 洪水の初期に濁りが高くなるため、土砂バイパスは洪水のなるべく早い時期から運用できるように考えた方がよい
- 洪水初期にダムに貯留させずにバイパス運用をした場合の効果について土砂収支の観点から確認すること
 - 魚類の忌避行動の確認として、濁度データや写真から本流と緩流域の濁りの違いなどを整理してはどうか
 - 無機物量がかかなり多く、平常時から濁っていると考えられる。付着藻類の調査においては、調査地点の水温、濁度、水深、流速も併せて測り分析すること
 - 付着藻類の増加により無機物、有機物が捕捉されてそれぞれの量が増加しているとも考えられる
 - 出水時の水温低下については月の平均的な値でよいのでオーダーを把握し、出水時との比較をすること。

- 付着藻類は1箇所では3検体とっているのであれば、そのばらつきも整理しておくこと。

3. モニタリング計画

事務局説明 ■ H31年度以降の施設モニタリング調査及び環境モニタリング調査の計画について、第5回委員会時からの修正点を含めて説明

- 主な意見等**
- 濁度計は欠測などが生じないように、定期的にデータを吸い上げ、異常がないことを確認した方がよい
 - 三峰川橋の濁度を計測しないことで地点間隔が長くなっている。竜東橋と天女橋の濁度差を確認しながら必要性を判断するのがよい。
 - ダム流入地点（飯島堰堤）濁度計測は非常に重要。確実に計測するため、空間的な分散も含め、濁度計の二重化も検討すること

4. その他（運用計画について）

事務局説明 ■ 事務局よりストックヤードの効率的な運用方法および危機管理を踏まえた運用方法について説明

- 主な意見等**
- 計画規模を上回る大規模洪水時の問題点（流木対策等）も考えておく必要がある

5. 今後の予定について

事務局説明 ■ 事務局よりH31年以降の委員会の位置づけ及び開催予定について案を説明

- 主な意見等**
- 位置づけ及び開催予定について了承された。

以上